

平 20 綾川建発第 01073 号
平成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長 殿

綾川町長 藤 井



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあったこのことについて、別紙
のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

香川県綾川町

地方においては、大都市圏で進められている『コンパクトなまちづくり』とは反対に、既に形成されている分散型の都市構造において、通勤、通学また病院等の施設間を連携する道路を整備する必要がある。また、合併町においては、行政機関を連絡する道路の整備も必要となり、住民生活に必要な道路整備の条件が都市部とは異なっているのが実情である。

このようなことから、今後の道路行政においては、自治体の財政状況が厳しい状況下でも、自治体の負担が少なく地域の実情に即した道路整備が推進できるよう要望する。また、既に整備済みの道路については、その維持管理に今後多大な費用が必要となることが予想されることより、道路の維持等に係る費用についても、地方の負担軽減を図られるよう合わせて要望する。

②－１ 地域の現状と抱える課題

香川県綾川町

○現状

当町は、中間地域であり、平成１８年３月に２町が合併して誕生した町です。町内については、過疎地域がある一方で、大型商業地域がある地域もあり、地域間の格差がかなり大きい。

大規模な商業施設が存在する地域については、町外からの買い物客が多数訪れることにより、周辺道路の混雑が生じている。

また、その周辺地域においては、農用地の宅地化が進んでいる。

当町においても、住民の高齢化が進んでいますが、電車、バス等の公共交通が都市部に比べて少ないため、移動の手段として高齢者が自ら自動車を運転するケースが多くなっている。

○課題

過疎地域においては、通勤、通学、買い物等日常的な移動のため、また、病院等生活に欠かせない施設への経路、あるいは、災害時の連絡経路としての道路整備が急がれています。合わせて、既存ストックである道路の維持管理に係る費用等が今後増大することが予想される。

大規模な商業施設が存在する地域については、周辺道路の混雑緩和のため、円滑に通行できる信頼性の高い道路を整備する必要がある。

その周辺の住宅化が進む地域においては、日常生活に必要な道路の整備の必要が生じている。

運転者の高齢化により、安心して通行できる道路、また、高齢の歩行者が安心して歩ける道路づくりが必要である。

以上のことより、地域の実情に応じた柔軟な道路整備を推進する必要がある。

②－２ 地域の目指すべき将来像

香川県綾川町

幹線的な道路網の整備及び高速道路インターへのアクセス道路の整備を促進し、町内の地域間相互の有機的連携強化を図り、近隣市町さらには県外への広域的なネットワークを形成する。

幹線道路網と接続した町道ネットワークを計画的に整備することにより、住民の身近な生活道路網を構築する。

河川沿いの自然環境や観光資源などを巡り、町内外の人が楽しく通れる自転車道、散策道の整備を進め、地域の活性化を図るとともに、歩行者や自転車等の交通弱者にやさしい道路環境づくりを進める。

年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが安全で円滑に道路を通行できるよう、段差の解消や案内・誘導設備の充実等のバリアフリーの路づくりを推進する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

香川県綾川町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	町道西浦線整備 綾南橋（県道綾南府中線）拡幅 国道３２号への歩道橋の架橋	高松自動車道府中湖スマートインターからのアクセス道路となるとともに、隣接する大規模小売店舗への交通混雑の緩和を図る。 大型車両の増加に伴い通行の危険性が増大しているため、現在の狭隘な橋梁を拡幅することにより、車両の通行の円滑化及び自転車、歩行者の安全を確保するとともに町道西浦線と同様、高松自動車道府中湖スマートインターからのアクセス及び隣接する大規模小売店舗への交通混雑緩和を図る。 高松琴平電気鉄道の新駅設置により大規模小売店舗への買い物客等の乗降客の増加が見込まれるため、歩行者の安全確保を図る。	